

第25号

開 鐘

K E - J O U

沖縄県立芸術大学広報誌





粘土アニメ教室

第15回沖縄県立芸術大学移動大学

移動大学 in 城辺



三線教室

開催期間：2022年11月26日（土）・27日（日）

開催会場：宮古島市立福嶺小学校

主催：沖縄県立芸術大学

事業委託：株式会社ワンスペース



織あそび教室

本学が主催する移動大学は2022年度で15回目を迎えました。15回目の移動大学は宮古島市城辺地区にて「移動大学 in 城辺」として開催されました。本学から15名の教職員、事業委託会社から3名のスタッフが宮古島に渡り、粘土アニメ教室、楽カマ陶芸教室、織あそび教室、歴史文化教室、三線教室、琉球舞踊教室、空手教室の全7教室を開講しました。宮古島市城辺地区の小中学生延べ75名が参加し、参加した子ども達からは「楽しかった!」、「将来は陶芸家になりたい!」などのコメントをいただきました。

また、26日の夜には地域文化芸能交流会を開催し、本学からは空手の演武や琉球舞踊の演舞、粘土アニメ教室で子ども達が作った作品の紹介を行い、宮古島市城辺地区からは地域の芸能「ヨンシー」、「クイチャー」が演じられました。



地域文化芸能交流会



歴史文化教室



楽カマ陶芸教室



空手教室



琉球舞踊教室

令和4年度をもってご退任された音楽表現専攻
声楽コース 片桐仁美教授からのメッセージをご
紹介します。

音楽表現専攻 声楽コース 教授

片桐仁美

沖縄県立芸術大学が創設された1986年頃、私はウィーンの大学に通っていました。1988年に大学を卒業した後は、オペラ歌手として留まり、結局16年間海外で生活することとなりました。

1997年に帰国。大阪音楽大学で非常勤講師をしながら日本での演奏活動を始めました。2000年に中村智子先生、ウーヴェ・ハイルマン先生ご夫妻とNHK交響楽団の『第九』で一緒に沖縄県芸の存在を知りました。またウィーン時代に知り合った佐久間龍也先生、バイロイト音楽祭の合唱で一緒にした小池哲央先生ご夫妻、それにオペラで一緒にした大勝秀也先生など、ご縁のある先生方が教鞭を取っておられるということで、大学を身近に感じました。そのため思い切って教員採用の公募に応募したのが沖縄に来るきっかけです。

沖縄に来て、県民の皆様が琉球芸能を愛しておられる半面、あまり西洋の音楽になじんでおられないことがとても残念に思われました。赴任当初は大学創設以来の先生方がたくさんおられました。その方々から、琉球芸能は発展させながら県外に発信すること、そして西洋音楽を沖縄県内で一般の方にも認知していただくことが、沖縄県立芸術大学の使命だと習いました。

沖縄県立芸術大学では、私の赴任前には大掛かりなオペラ公演を行っておられたようです。ところが、私が来た頃には、色々な困難があり、オペラの上演は不可能な状況でした。学生たちはそれでもオペラ公演を行いたいと望んだので、私の担当学生を中心に、『ヘンゼルとグレーテル』の公演を行いました。このプロジェクトは、声楽学生だけではなく、ピアノ学生が練習ピアノを弾き、作曲学生が小規模なオーケストラに編曲したものを器楽学生が演奏し、デザインの学生が舞台装置や衣装を制作するという全学的なものとなりました。再演を重ね、学校公演も行い、文化庁の広報でも「沖縄便り」として取り上げていただきました。この公演が私の沖縄での一番の思い出です。

私の人生は歌と共にあり、世界の人々と一緒に舞台を作り上げ、たくさんの友人を得ることができました。舞台を通じて芽生えた友情や信頼を活かすことができれば、世界はどれだけ平和になるかと思います。

その豊かな体験、幸せな時間を、これから世界に飛び出す若い人たちにもぜひとも味わってもらいたいと熱望しつつ、大学とお別れいたします。本当にお世話になりました。ありがとうございました。

沖縄県立芸術大学×デパートリウボウ

第3回 アートフェスティバル

展示販売&演奏会

開催期間：2022年9月28日(水)～
10月1日(土)

開催会場：デパートリウボウ
6階イベントスペース



沖縄県立芸術大学とデパートリウボウとの社会連携として、第3回アートフェスティバル、展示販売会&演奏会を開催致しました。

2022年9月28日(水)～10月1日(土)までの4日間、デパートリウボウ6階イベントスペースで行われ、造形芸術研究科の大学院生を中心に卒業生の参加を含めて、「絵画」「彫刻」「デザイン」「染」「織」「陶芸」「漆芸」の約1000点の作品が並びました。

制作者自身が対面での販売を経験する事で、作品の制作意図や魅力を存分に説明できる貴重な機会となりました。





音楽学部による演奏会は、6階イベントスペースをメイン会場として、「金管」「木管」「弦楽」「打楽器」「琉球古典音楽」など多彩な音色を奏でる演奏会が催されました。

さらに、開店時刻に合わせて、正面入りの展示作品前では、「琉球古典音楽」の演奏が行われ、好評を得る事ができました。

美術と音楽の個性豊かなアートを五感で感じ、楽しんで頂けるイベントとなりました。





大学は自分のやりたいことを学ぶだけではなく、
いろんなやりたいことが見つかる場所

金城真次

(音楽学部琉球芸能専攻 17 期卒業生)



音楽学部琉球芸能専攻 17 期卒業生で、現在、国立劇場おきなわで芸術監督を務めているしゃる金城真次さんにお話を伺いました。

大学院を修了して琉球舞踊の教師免許を取得してからは、稽古場を持ち弟子を迎えるまでになりました。お弟子さんたちの顔を見合わせると時間の経過を感じさせます。わたしは幼い頃から舞踊に親しんでいたので、自分がやってみたいことが5つも6つもあったんです。それでも、大学に入ってみたら、それが10にも20にもなってしまって…大学での学びから大きく広がっていききましたね。

それを支えたお気に入りの場所の一つは、大学図書館や芸術資料館かもしれません。わたしの場合は、とにかく図書館が大好きで、時間を忘れるくらい、どんな本も読んで過ごしました。洋楽の学内演奏会にもよく足を運んで聴きました。自分たちの舞台とは何が違うのかを考えながら観ましたね。自分たちの知っている世界と違うものに触れることができる、そういう

ふうに考えてみると、学生生活では、空いている時間をいかに有効に使うことができるかが勝負だったのだと思います。

これまでに琉球舞踊、組踊、芝居、いくつもの舞台を経験させてもらったことは糧になっていますが、多彩な芸術・芸能に触れたことで、あらゆる角度から物事を見る視点を育むことができたことは大きいと感じています。今でも「それはそうだったのか!」という新しい発見もあります。

最後にわたしが伝えたいのは、自分の専門だけに限らずに、是非とも他の専門分野にアンテナを張って、知識の引き出しを増やしてもらいたいということです。美術の展示なども本当に素晴らしいです。それらからは、得るものがあったとしても失うものは何もありません。大学は自分のやりたいことを学ぶだけではなく、いろんなやりたいことが見つかる場所です。皆さんにとってもそのような場所になってほしいと思います。

(聞き手：遠藤美奈・嘉数道彦)

第33回琉球芸能定期公演

2022年10月1日(土)

沖縄県立芸術大学奏楽堂ホール



演目

琉球古典音楽斉唱(安富祖流)「かぎやで風節」「ごえん節」「揚作田節」

琉球古典音楽斉唱(野村琉)「稲まづん節」「早作田節」

琉球古典音楽独唱「子持節」「本花風節」「述懐節」

琉球舞踊「作田」「秋の踊り」「加那よ一天川」

創作舞踊「愚羽」

組踊「手水の縁」より出逢いの場



第33回洋楽定期公演

2022年11月15日(火)

沖縄県立芸術大学奏楽堂ホール



プログラム

C. T. スミス：フェスティバル・ヴァリエーション

柴 佑：行進曲「南国の狂宴」(初演/作曲理論コース公募作品)

A. メンケン：「ノートルダムの鐘」より(森田一浩 編曲)

D. マスランカ：交響曲第4番

指揮：阿部雅人、倉橋健

出演：沖縄県立芸術大学音楽表現専攻管打楽コース

賛助出演：沖縄県立開邦高等学校芸術科音楽コース有志

附属図書・芸術資料館 令和4年度 自主企画展



沖縄が本土復帰した1972年に琉球政府立博物館とサントリー美術館（東京）で開催された「50年前の沖縄一写真でみる失われた文化財」展では、鎌倉芳太郎（1898～1983年）が大正末期から昭和初期におこなった琉球芸術調査の際に撮影した建築や美術工芸品などの写真400点余りが展示されました。その被写体の多くが沖縄戦で失われていたこともあり、30日間の会期に18万もの人々が博物館を訪れました。1975年の沖縄海洋博覧会沖縄館でも展示され、1982年には『沖縄文化の遺宝』（岩波書店）が出版されて広く知られることとなったのです。鎌倉写真は1980～90年代の首里城再建にも活用され、現在進められている再建でも重要な役割を果たしています。1986年に以降に沖縄県立芸術大学に寄贈され、2005年に

は沖縄の歴史・文化をものがたる貴重な資料として、重要文化財に指定されました。

本展では、本土復帰50年と「50年前の沖縄」展開催50年を記念して、鎌倉写真の撮影・保管から公開、沖縄県立芸術大学への寄贈、重要文化財指定への経緯を辿り、併せて現在文化庁の補助事業として進められている鎌倉写真ガラス乾板保存・修復事業と東京文化財研究所と沖縄県立芸術大学の共同研究として進められているガラス乾板デジタル化について紹介しました。前年度と同様にコロナ禍での開催となりましたが、琉球文化の栄華を今日に伝える鎌倉芳太郎撮影写真への関心は高く、13日間（10月22日～11月3日）で566人の入場者を迎えることができました。



二代目宮城能造先生による実践教育プログラム開発事業の授業風景

芸術文化研究所では文化講座の開講としまく
とぅば実践教育プログラム開発事業を行なっ
ています。令和4年度は、文化講座「現代沖縄
諸芸術の変遷」（オンデマンド講座）と「腰機
入門 - 花織編 -」を開催しました。

文化講座「現代沖縄諸芸術の変遷」では、沖
縄戦から琉球政府時代を経て日本復帰という流
れを通じて、沖縄の芸術諸領域が置かれた個別
の状況と変遷過程に注目し、14名の様々な専
門分野の講師による講座を公開しました。本講
座は令和4年4月14日から令和4年11月

30日まで公開され、県内外から延べ2584名
の受講生が視聴しました。

文化講座「腰機入門 - 花織編 -」では、復元
された腰機を使用して、やしらみ花織の製織を
試みました。本講座は高度な技術を持っている
高機経験者4名を対象にし、令和4年12月1
日から2日間開講されました。

しまくとぅば実践教育プログラム開発事業で
は、琉球芸能専攻でしまくとぅばによる実践教
育を行なっています。今年度は二代目宮城能造
先生による授業を開講しました。



現代沖縄諸芸術の変遷の配信動画



「腰機入門 - 花織編 -」の様子

【絵画】

當真凜大（修士1年） 第7回石本正 日本画大賞展 準大賞
大城佳乃子（学部3年） 第14回なは市民芸術展 文化協会会長賞
山脇優香（学部3年） 第14回なは市民芸術展 奨励賞

【彫刻】

戴素貞（博士） 第74回沖展 奨励賞
古藤未来（学部4年） 国際瀧富士美術賞 第43期 優秀賞

【デザイン】

旗旗偉（修士2年） 第74回沖展（グラフィックデザイン部門） 奨励賞 / CYCLE 展-創造するエネルギー 2022-第6回沖縄県立芸術大学大学院造形芸術研究科 at OIST 優秀賞 / 第34回卒業・修了作品展 北中城村長賞
高野大（修士1年） 第51回沖縄県芸術文化祭 写真部門 最優秀賞 / CYCLE 展-創造するエネルギー 2022-第6回沖縄県立芸術大学大学院造形芸術研究科 at OIST 最優秀賞
喜友名美沙希（修士1年） A' DESIGN AWARD & COMPETITION Furniture Design BRONZE A' DESIGN AWARD
根間笑花（学部4年） 地域発デジタルコンテンツ 総務大臣奨励賞 / 第34回卒業・修了作品展 北中城村文化協会賞
當間奈津菜（学部4年） 第51回県芸術文化祭公募展（主催・県、県文化振興会）写真部門 入選
稲嶺優子（学部4年） 第74回沖展（木工芸部門） うるま市長賞（グラフィックデザイン部門） e-no新人賞
安里小和（学部4年） 第74回沖展（彫刻部門） e-no新人賞
仲地涼（学部3年） 沖縄デジタル映像祭 2022 短編部門 優秀賞
野原ひなた（学部3年） 沖縄デジタル映像祭 2022 超短編部門 優秀賞

【工芸】

<漆芸分野>
前田美海（修士2年） 2022 伊丹国際クラフト展「酒器・酒盃台」コンテスト 入選
又吉絃士（修士1年） 第27回 日本文化藝術財団奨学生
吉田舜乃（学部4年） 令和4年度 漆工奨学賞（日本漆工協会）

<織分野>
與座ジョンロバート（修士2年） 第76回新匠工芸会展 入選 / 第34回卒業・修了作品展 デパートリウボウ賞
新垣萌々（学部4年） 第34回卒業・修了作品展 沖縄美ら島財団理事長賞

<染分野>
島尻椎菜（修士2年） 第31回りゅうぎん紅型デザインコンテスト 奨励賞 / 第41回くらしの工芸展 2022 入選
第76回新匠工芸会展 入選 / CYCLE 展-創造するエネルギー 2022-第6回沖縄県立芸術大学大学院造形芸術研究科 at OIST 優良賞
又吉隆史（修士2年） 第51回沖縄県芸術文化祭 美術公募展 入選
仲宗根萌（学部4年） 第74回沖展 入選

【芸術学】

鈴木一平（修士2年） 第34回卒業・修了作品展 沖縄県立博物館・美術館長賞

【山本正男賞】

高嶺瑞貴（生活造形専攻） 李敏君（生活造形専攻） 大城可奈子（環境造形専攻） 鈴木一平（比較芸術学専攻）

【西銘順治賞】

比嘉有飛夢（絵画専攻） 古藤未来（彫刻専攻） 知花龍（デザイン専攻） 新垣萌々（工芸専攻）

【音楽表現専攻・演奏芸術専攻】※一部抜粋

<声楽コース>

岩元珠音(学部3年) 第55回新報音楽コンクール 声楽部門一般の部・特賞・第1位 / 第32回日本クラシック音楽コンクール 大学女子の部 全国大会出場

福元星梨奈(学部3年) 第55回新報音楽コンクール 声楽部門一般の部・第3位

柴田真歩(学部2年) 第55回新報音楽コンクール 声楽部門一般の部・第2位

<ピアノコース・ピアノ専修>

吉田七星(修士2年) 第12回クオリア音楽コンクール コンサート部門 第2位 / 第39回JPTAピアノ・オーディション沖縄地区D部門 地区大会 優秀賞

林陽菜(学部3年) 第39回JPTAピアノ・オーディション沖縄地区D部門 地区大会 優秀賞

當山涼(学部3年) 第55回新報音楽コンクール ピアノ部門一般の部 第2位

宮城玲奈(学部2年) 第55回新報音楽コンクール ピアノ部門一般の部 第1位

仲宗根和志(学部2年) 第32回日本クラシック音楽コンクール 大学男子の部 全国大会出場

野崎利寿々(学部1年) 第39回JPTAピアノ・オーディション 地区大会 優良賞 / 第55回新報音楽コンクール ピアノ部門一般の部 第3位

西村安奈(学部1年) 第13回日本パッサコンクール全国大会 大学・大学院部門 奨励賞

<弦楽コース>

島田聖生(学部2年) 第55回新報音楽コンクール 弦楽部門(ヴァイオリン) 一般の部 第1位

<管打楽コース>

亀島怜来(学部4年) 第55回新報音楽コンクール 管打部門(フルート) 一般の部 第1位

大沼花音(学部3年) 第28回宮日音楽コンクール 打楽器部門 最優秀賞

池間夢依(学部3年) 第28回宮日音楽コンクール 管楽器部門(クラリネット) 入選

宮迫希(学部2年) 第55回新報音楽コンクール 管打部門(フルート) 一般の部 第2位

大城そのか(学部2年) 第55回新報音楽コンクール 管打部門(サクソフォン) 一般の部 第3位

<管弦打楽専修>

島田優香(修士1年) 第55回新報音楽コンクール 弦楽部門(ヴァイオリン) 一般の部 第2位 / 第28回宮日音楽コンクール 弦楽部門(ヴァイオリン) 入選

【琉球芸能専攻・舞台芸術専攻】

石嶺李安(修士1年) 第56回琉球古典芸能コンクール 琉球舞踊部門 最高賞

大城希里(学部4年) 第56回琉球古典芸能コンクール笛部門・胡弓部門 優秀賞 / 第46回八重山古典民謡コンクール八重山民謡部門 最優秀賞

翁長俊輔(学部2年) 第56回琉球古典芸能コンクール 琉球舞踊部門 最高賞

山入端依莉(学部2年) 第56回琉球古典芸能コンクール 琉球舞踊部門 最高賞

山城美帆(学部2年) 第56回琉球古典芸能コンクール 箏部門 新人賞

伊波陽香留(学部1年) 第56回琉球古典芸能コンクール 胡弓部門 新人賞

比嘉梨音(学部1年) 第56回琉球古典芸能コンクール 三線部門 新人賞

與儀力斗(学部1年) 第56回琉球古典芸能コンクール 三線部門 新人賞

藤島弘美(学部1年) 2022年度沖縄タイムス伝統芸能選考会 舞踊部門 新人賞

【山本正男賞】

吉田七星(演奏芸術専攻) 長谷川早紀(演奏芸術専攻) 安元麦(音楽学専攻) 白砂真也(芸術文化学専攻)

【西銘順治賞】

坂田歩(音楽表現専攻) 宮里凜花(音楽表現専攻) 玉城菜々子(音楽文化専攻) 石川両子(琉球芸能専攻)

堀川裕貴(琉球芸能専攻)

開鐘 (KE-JOU)

開鐘とは、明け六つの開静鐘の優雅な音に
たとえられた三線の尊称です。

沖縄県立芸術大学も開鐘のように

遙か彼方まで鳴り響き、

世界に向かって飛躍する拠点となる事を願い、

広報誌を「開鐘」と名付けました。

沖縄県立芸術大学 広報委員会

2023 年 5 月 15 日発行



公立大学法人

沖縄県立芸術大学

OKINAWA PREFECTURAL UNIVERSITY OF ARTS

表紙作品

螺鈿沈金乾漆箱「涼風」

高嶺 瑞貴